

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370926

研究課題名(和文) 地方地場産業におけるリーディング企業の役割に関する地理学的研究

研究課題名(英文) A geographical study on roles of leading firms in local industries

研究代表者

平 篤志 (Taira, Atsushi)

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：10253246

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、リーディング企業の役割に注目して、地方の地域産業の生存戦略を地理学的な視点から解明することを目的とした。具体的には、四国地方に本拠をおき、積極的に海外展開を行っている企業(群)を研究対象とした。研究方法として、既存の資料、統計類を分析したほか、国内外の関係地域において現地調査を複数回実施した。研究の結果、地域経済を先導するリーディング企業は積極的に海外に拠点を築くことでグローバルなネットワークを構築する一方、四国の地場においては関係機関と連携しつつ、本社機能と高付加価値製品を製造する機能を保持してローカルなネットワークを維持し、全体として地域経済の発展に寄与している状況が解明された。

研究成果の概要(英文)：This study aims to explain survival strategies of local industries focusing on the roles of leading firms from a geographical perspective. As a case, firms head-quartered in Shikoku, which are performing active foreign operations, were examined. With analysis of relevant materials and statistics, field research was conducted both inside and outside Japan for multiple times. As a result, this study has revealed that leading firms in local industries have been contributing to develop the local economy as a whole by creating global networks through foreign operations and by maintaining local networks through sustaining the head-quarter functions and highly added-value manufacturing in the locality in collaboration with relevant local institutions.

研究分野：人文地理学

キーワード：地域経済 地場産業 中小企業 海外展開 リーディング企業

1. 研究開始当初の背景

1980年代後半以降、日本経済のグローバル化が急速に進行し、日本は国際化の時代を迎えた。この動きを先導したのは、繊維、石油化学、鉄鋼、自動車、電器といった製造業を中心とする大手企業であった。しかし、その後これらの大手企業を追うように、中小企業の海外展開も活発になった。その背景には、企業間競争の激化に伴う人件費抑制と新規市場開拓の必要性の高まりがあった。

日本では、周知のように、政治的側面のみならず、経済的諸機能の首都東京への一極集中状況がみられるが、大都市圏以外の地方に本拠をおきながら、国内において高い市場占有率をもち、合わせて積極的な海外展開を行っている中小企業が増加しつつある。一方、地方では、人口減少がつづく中で地域経済が停滞し、明るい未来を描けないところが増えている。新規企業の進出を誘致すべく、工業団地等の高度なインフラを備えた空間を整備しても、肝心の企業立地につながらない事例が散見される。しかし、有力な中小企業(群)が存在する場合は、その企業(群)を中心にして、新たな産業クラスターを構築することも不可能ではない。また、当該企業(群)の海外進出先地域との間でネットワーク(パイプライン)を構築し、地域全体の国際化を推進することも、地域発展戦略の1つとして捉えられよう。

2. 研究の目的

国内の地域(地場)産業を中心とする産業集積に関する研究は、特に地理学的研究では、これまでその空間構造に着目したものが多かった。しかし現在、中小企業の海外展開(多国籍企業化)が進行しており、地域産業を構成する企業の中には、積極的に海外展開を行っている企業がある。他方で、製品の差別化により地場での生産にこだわっている企業もある。したがって、現在の地域産業の特徴を捉えるには、企業による戦略の相違と海外展開先も含めた地域産業の空間構造を分析する複合的な視点が必要となる。そこで、本研究は四国を中心に、地方に本拠をおく中小企業の中で、特に産業の牽引役を果たすリーディング企業に着目し、海外事業と地場を関係づけて、当該企業の特徴を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の学術的な特色は、地方に展開する地場産業のリーディング企業の役割を、地理学的な視点に立って検討する点にある。ローカルからグローバルスケールに至る様々なスケールの諸事象は、相互に影響を及ぼしあっている。このような時代において、企業は異なるスケールからの要求に同

時に対応し、適応することが求められる。グローバルとローカルをつないだグローバルという語は、そのような時代の要請から生まれた言葉といえる。しかし、これまでグローバルに関する議論は抽象的なそれに終始することが多く、実証研究は蓄積の途上にある。一方で、その実証研究も大企業研究が主体であり、中小企業群のグローバル戦略に着目した研究はわずかにすぎない。中小企業群の存在は、立地する地域において重要な役割を果たしてきた。今後もその役割を維持・発展することが求められている。

研究方法としてまず、日本における中小企業のおかれた現況を確認した上で、四国に本拠をおき、国内または海外市場で高いシェアを誇る企業(群)を抽出し、本社における聞き取り調査を中心とした現地調査を実施した。具体的な事例として、香川県東かがわ地域に展開する手袋関連企業(群)、愛媛県今治地域に展開するタオル関連企業(群)、そして香川県に本拠をおき、国内外で高い市場シェアをもつリーディング企業(群)を取り上げた。特に、第1の手袋関連企業(群)については、リーディング企業3社を対象として、それらの展開先である、フィリピン、ベトナム、カンボジアにおいて聞き取り調査を中心とする現地調査を実施した。また、関連して、国内(東京)、アジア(中国、韓国)、ヨーロッパ(イギリス、ベルギー、フランス)、アメリカにおいて中小企業を中心とした日系企業の最新の展開状況について調査した。

4. 研究成果

研究の結果、地方の地域(地場)産業の生存・成長戦略として、中小リーディング企業の存在が重要であることが明らかとなった。具体的には、以下の諸点を指摘できる。まず、大企業中心であった海外展開が中小企業にも着実に広がりつつあること、そして国内企業の海外展開は必ずしも国内の産業空洞化を招来するわけではなく、むしろ国際業務の増加が国内本社を中心に人員増や業務増につながっていること、中小企業の海外展開においては、地域経済におけるリーディング企業の果たす役割が大きいこと、したがってそれらリーディング企業の存在と発展が地域経済にとって重要であることの4点である。また、国内本社と海外展開先の関係については、垂直かつ水平的な柔軟な経営体制が志向されていること、企業群の立地に関しては、人的なつながりであるパイプラインの構築と地域内における関係企業・機関同士の情報(Buzz)の共有が重要であることが指摘できる。

事例地域産業として取り上げた東かがわ市の手袋産業と今治市のタオル産業は、現在、当該産業そのものの質的転換期にある。生産コストのさらなる低減を目指して、中

国の大都市圏以外の地域やベトナム、カンボジアなどが進出地域に加わった。一方で、販売・流通拠点の構築にも積極的に取り組み、欧米地域のほか中国にも販売事務所が設置されている。生産現場の中心が海外にシフトする中、地場の東かがわ地域および今治地域では、本社機能と生産・流通の調整機能、製品の企画開発機能、一部高級品の生産機能を維持して、「地域ブランド」の核となる「頭脳」を保っているが、地場の職人の高齢化が進行し、新たな職人の養成と企画・販売のエキスパートの育成が急務の課題となっており、組合を中心にエキスパート養成プロジェクトが始動している。

東かがわ地域の手袋関連企業(群)は100社を越える企業群からなる。当該地域における手袋製造の歴史は明治時代に遡り、1世紀を越える伝統をもつ。東かがわ地域の手袋産業は、現在でもなお国内シェアの90%を占め、香川県が全国に誇る地場産業の1つである。当産業は、国内市場に製品を供給するのみならず、同時に海外への輸出用にも生産を行って日本有数の生産基地として発展してきたが、1970年代以降国際競争の激化によって輸出市場が縮小し、内需へより重心をおく戦略転換が行われる一方、円高期以前の1970年代から積極的に海外展開を行ってきた。生産品では、冬季用の一般手袋にとどまらず、ゴルフなどスポーツ用、バイク用手袋、最近の健康ブームを反映したUVカット手袋など新分野の開拓が熱心に行われてきた。他方、革手袋の加工技術を生かして、かばん・小物等の製品も生産されるようになった。

現在、当産地では、一方で組合を核とした地元産高級手袋生産・販売を基軸とした「地域ブランド」戦略を推進し、他方で産地を代表するリーディング企業が積極的な海外展開に立脚した「ブランド」戦略を推進し、それらを両輪として産地全体の発展を目指そうとしている。海外展開にあっては、中国への依存度を低くすべく、「チャイナ・プラス・ワン戦略」が志向され、生産基地が東南アジアにシフトしつつある。また、海外事業所における研究開発機能と販売機能が強化されつつある。全体として、積極的に海外展開を図る比較的規模の大きな企業と少量の高級・専門品製造に特化する小規模企業という異種のリーディング企業の存在が当該地場産業の強みとなっていることが判明した。

一方、愛媛県今治市に展開するタオル関連企業(群)も100年を超える歴史を有する。当該産業は、古くからの棉産業を基礎として発展し、1960年代には日本最大のタオル産地となった。しかし、生産量は1980年代後半をピークに減少の一途をたどっている。その背景には、海外企業との競争の激化があった。1988年以降当該産業はこの問題に対応すべく海外展開を開始した。

当初東南アジアに進出したが、その後中国に生産地が集約された。現在、生産地には染色など関連企業も進出を開始しており、中国におけるタオル生産の一大拠点となっている。タオル製造企業は、当初は海外の生産拠点で一般製品を、国内の地場で高級品を生産する選択的戦略を採用したが、その後海外工場でも付加価値の高い製品が生産されるようになり、地場の意味が問われるようになった。また、中国など海外メーカーの製品との競合も激化し、地元生産の比率は低下の一途とたどった。危機感をもった産地では、組合とリーディング企業を中心として、地元産高付加価値タオルを中心とした「今治ブランド」構築に着手した。組合では、生産から販売まで一貫した体制づくりに力を注いだ。この試みは成功し、地元生産量も回復しつつあり、地方地場産業復活の先例となった。

第3に、独立的な企業でありながら高い国内もしくは海外シェアを誇る地方立地リーディング企業(群)の存在がある。前者の一例として靴製品を中心としたネット販売企業を、後者の一例として大型水槽製造販売企業を取り上げた。独立型であっても、このようなリーディング企業が同一地域に複数立地することにより地域経済の発展につながると考えられる。

研究の結果、地場産業の「地場」の意味と海外展開の質的変容、つまり国内の地場では必須の生産機能を確実に維持しつつ、グローバルに展開するネットワークの中心的機能を高度化する姿が確認された。その際、海外での事業展開と地場での高級・専門品の生産特化という異なる戦略を取るリーディング企業の存在に代表される多様なリーディング企業の存在が地域経済の維持発展に有効であることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

平 篤志, 地方地場産業の生存戦略と海外展開 - 東川地域の手袋産業を事例として -, 香川大学教育学部研究報告第 部, 査読有, 147号, 2017, pp.121-137.

Taira Atsushi et al. (2016): Spaces of creativity, diversity and global management, E-journal GEO, 査読有, 10(1), 2016, pp.62-66.

[学会発表](計4件)

平 篤志: 東南アジアにおける地方拠点中小企業の展開 - 東かがわ手袋企業のフィリピン・ベトナム進出の事例 -, 日本地理学会春季大会, 2017年3月28日(筑波大学, 茨城県・つくば市)

Taira, Atsushi: Overseas operations of local firms and cross-border management: a case study

of Japanese local firms, 2015 Moscow Regional Conference of the International Geographical Union (IGU), Aug. 17, 2015, Moscow (Russia).

Taira, Atsushi: Overseas operations of local firms and cross-border management: A case study of Japanese local firms.日本地理学会春季大会, 2015年3月29日(日本大学, 東京都・世田谷区)

平 篤志: 地方地場産業の海外展開と地場
の関係に関する考察. 日本地理学会秋季大会, 2014年9月21日(富山大学, 富山県・富山市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平 篤志 (TAIRA, Atsushi)
香川大学・教育学部・教授
研究者番号: 10253246

(2) 研究分担者 ()
研究者番号:

(3) 連携研究者 ()
研究者番号:

(4) 研究協力者 ()